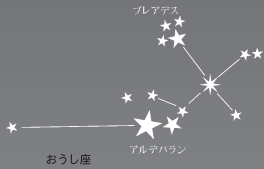


ポラリスを仰ぐ北の大地から



タブレットの補助金

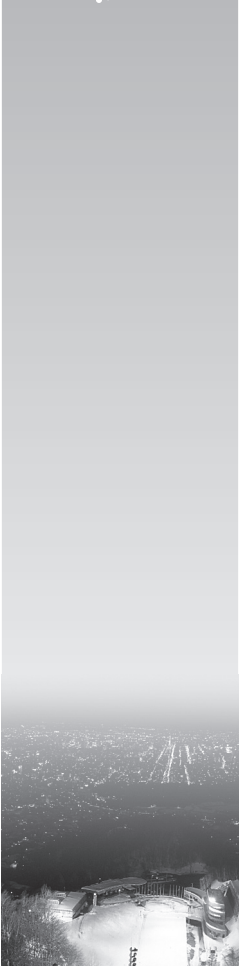
上川郡中央医師会 会長 藤原 正文

昨年9月、透析患者の足病変に関して、旭川医大病院血管外科が中心となり周辺の透析医療機関との間でモバイル端末を利用して双方向のICTネットワークを構築する計画があり、その参加のお誘いがあった。当クリニックも事業申請書にSB社のタブレットの見積書などを添付して道庁に申請した。その申請が認可されたのが今年の3月だった。

SB社にタブレット購入の連絡をすると、まずSIMカードが組み込まれたタブレット本体が送られてきた。次に、別のSB子会社からタブレットのスタンドケースが送られてきた。代金の支払いとその領収書を希望すると、代金はネットワークの利用料金とともに口座引き落としとなるため、4月以降になると言われた。さらにSB社は社内業務のペーパーレス化を目指しており、紙の領収書は原則的に発行しないとのことだった。領収書を道庁に提出するのは3月末が提出期限のため、交渉して、最終的に紙の領収書が発行された。すぐその領収書を道庁に送ったが、申請書と金額が違うと指摘された。よく見るとタブレットケース代が含まれていなかった。

3月中に間に合いそうにないので補助金の申請は取り下げの旨を、窓口である上川保健所の担当者に話した。その場合、今度は申請取り下げの理由書を書かなければならなくなるので、かえって面倒になるとのこと。結局は当初の申請金額からタブレットケース代を減額して補助金の決算は通った。

一件落ち着いたと思っていたところ、後日談があり、領収書の他に購入したタブレットの写真の添付も本当は必要であった。道庁の担当者が新人で連絡し忘れたため、そのため、その担当者がインターネットからSB社のタブレットの写真をダウンロードして申請書類に添付して提出してくれたとのことだった。振り込まれた補助金の金額は金17,000円と小額だったが、いろいろ勉強になった。



私の車自慢

上川北部医師会 会長 吉田 肇

私の親友、敬ちゃんはお酒と車が大好きでした。食道がんで恵佑会にお世話になりましたが、皆さんの理解もあり、時々小康を得ると退院して、お酒とごちそうを楽しんでいました。でも昨年冬、とうとう力尽きて帰らぬ人となりました。手術、抗がん剤、放射線、そして転移と厳しい経過をたどっていましたが、愚痴一つこぼさず、昔と同じように飲み歩き、悠々と余生を送りました。

背が高く、スタイルのいいハンサムで、おしゃれでしたから、一見チョイ悪おやじに見えますが、奥さん一筋、浮いた話を聞いたことがありません。私がハワイで買った安物の時計をしていると、とても嫌がって、「肇ちゃん、そんなものはだめだよ」と見るたびに言っていました。人の持ち物さえ気になるくらいですから、すべてに神経の行き届いたおしゃれをしていましたが、そうとは気付かせないのが、美学だったようです。

敬ちゃんの道楽は車で、札幌から名寄までポルシェをすっ飛ばして来ていました。私もゴルフに行くときは素敵なボルボを自分で運転しますが、酒飲みなので、札幌、旭川へは、「危機管理」上、ドライバー付きの車です。そんな私に敬ちゃんが薦めてくれたのが、ポルシェのカイエンとトヨタのアルファードでした。さすがにカイエンは手が届かなかったので、「アルファード4WDハイブリッドエグゼクティブラウンジ」にしました。座席周りの仕様はファーストクラス並みで実に快適です。こんな贅沢ができる身分ではないのですが、親友からの最後のアドバイスと思って購入を決めました。

敬ちゃんには買ったことを報告しましたが、私が乗っているところを見てもらえなかったことが心残りです。